

# 序論

## 1. テーマ選択理由

ベトナム人に対して、どんな宗教か信仰か、親に感謝気持ちを持っているのは子供たちの心の深い所に残っている。親子の愛はいつまでも存在し、美しいことである。東方にその感情は子供たちに対して主要になって、人間の家族を支配する現象の社会である。これはベトナムに深い道徳的な社会の表現である。

重要なことは、家族の父親、母親が出席することが必要に侵入する。生きても死んでも、親たちは子供たちに対して大切な人で、悲しい時か幸せな時に子供たちの側にいつもいる。

感謝気持ちを表すために、東アジアの人間は祖先を崇拝する習慣がある。特に、親たちに生まれ、育成感謝の意を表明、ある盂蘭盆日がある。

西洋、祖先を崇拝する習慣がなくても、親たちに感謝気持ちを表す日もある。それは母の日（5月の第2週目の日曜）と父の日（6月の第3週目の日曜）である。他には、11月は死んだ人たちのお祈り日である。そのため、11月は西洋の遅れ盆と言われる。

日本、カラフルな宗教的、東西両方の文化を消化する国は親に感謝気持ちを表す方法はどのようになったか？祖先を崇拝する儀式があるかどうか、ベトナム、中国、韓国などの盂蘭盆のようにするのか？

およびその他の国から慎重に選択培養、独自の分離培養に変えることを吸収している知ってのとおり、日本の文化を持つ国である。かなり異なっている日本の宗教の概念を持つ国である。日本では神道、仏教、キリスト教など、多くの宗教があるだが、どんな宗教を選ぶ、肯定しない。日本人に対して、現代的な西洋の発展の方向にも行くが、考え方は東方の特徴を持っている。そのためには、日本はベトナムと同じ、家族の礼儀、家族のことを重要にな

ることである。日本にベトナムの盂蘭盆のようにあるお盆と呼ばれる祝日がある。

お盆は基本的に、仏教のお祭りが、日本は社会全体の共通の活動にはなっている。

日本科学の生徒で、日本観や日本の精神生活を理解するために、このお祭りをけんきゅうする。他の一方は、この研究を通じて、日本の文化祭、日本の伝統文化、特にお盆祭りを検討する興味がある人たちに役に立つ希望を持っていると思う。

## 2. 先行研究

ベトナム語での資料は少ない。ほとんどの著者として自分たちのメッセージを豊かに証拠のためのガイドとして、お盆を記述する。

Cung Hữu Khánh, “日本人と宗教”の中に日本に影響した宗教を理解された。(神道、仏教、キリスト教など)

Nguyễn Văn Mạnh, “現代社会での伝統的な祭りの価値”に価値観教育、価値観の人生の現実を反映して博物館の文化的伝統、精神的、文化的価値観、経済的価値を現れた。

Hồng Lê Thọ, “日本の祭り文化—伝統的を守る方法”。この記事では、著者は日本の祭りの起源や今の祭りの特徴や日本の伝統的な祭りが維持される原因などをあらわす。ベトナムの伝統的な祭りの維新方法を比べ。

日本と東アジアの雑誌研究は日本の伝統的な祭り、特にお盆についてたくさん記述した。

上記のほとんどの研究は、お盆の一つ面から見て、お盆に関するシステムを構成されなかった。

本論はお盆について具体的に研究し、科学的のしたがって検討する。

### 3. 研究範囲

祭りは日本人が大好きで、生活の一部である。日本では、どこの各地でも地方の特徴な祭りもある。本論は日本における一つの最大の祭りで盆お祭りについて研究している。

### 4. 研究方法

お盆に関するベトナム語の資料は少ないので、色々なリソースをした：研究者の研究を集め、すべての民間文化雑誌、文化芸術、英語と日本語での研究材料、英語と日本語でのウェブサイトに掲載する情報など使用し、昔のお盆と現代お盆を比べるために比較方法を使い、そして日本のお盆とベトナムの Vu Lan を少しずつ、比較した。

**比較方法：**お盆の行い方やお盆の礼儀や盆踊りなどの変化を理解するため、時間比較方法をし、各地域によると、開会の期間が違うのを確認できるように、空間比較方法をする。加えて、第 III 章には、伝統的な祭りを維持することについて、日本とベトナムを比較して、ベトナムの伝統的な祭りを守るためにいい経験を取ってもらった。

**合成の学際的方法：**日本の伝統的な祭りと盆お祭りを理解するために、さまざまな科学の合成研究を集め、文化の学習、歴史、教育学、社会学、宗教...

**歴史方法：**再変更の形成と仏教の発展のためのお盆は特に、日本の伝統的な祭りに影響する変化な階段を与える計算をもたらした歴史的な期間存在する。

**材料を収集する：**雑誌、新聞、書類、ベトナム語と外国語、ウェブサイトからなどの材料とイメージ。

### 5. 研究意義

今日、我が国は発展して、ますます多くの国際的な友達が来て、特に日本人である。文化を交流、経済を発展する希望として、日本企業はベトナムに

たくさん投資するし、日本語を勉強する希望がたくさんなるし、日本の会社で勤めるベトナム人も多くなってることである。

お盆をシステムの的に検討すると、日本の文化、特にお盆についての理解を加え、日本語を勉強、日本の文化を検討している人たちに役に立つと思う。

加えて、お盆の研究を通じて、日本観が理解できるし、日本で住んでいるベトナム人を助けて生きやすい、日本の会社での同僚についての詳細を理解する作業に役に立つ。

## **6. 研究結果**

本論を通じて、自分が日本の伝統的な祭りについていろんな知識があった。これらの研究は日本文化とお盆に関心する人たちを助ける希望があった。

## **7. 今後の課題**

お盆の研究を通して、日本の伝統的な祭りの概要があり、将来の日本の伝統的な祭りの研究のための基礎として支援する。

## **8. 研究構成**

本論では、序論と結論の以外、3つの主要な章に分かれている。次のとおり：

**第1章**：概念のことについて。第1節は一般的な概念、祭りの構造と機能であり、第2節は祭りと日本の祭り、日本伝統的な祭りを分類し、第3節はお盆という言葉の由来とお盆の定義について紹介する。

**第2章**：4つの主要な問題を解決する。第1節は日本での仏教の形成との発展、お盆原点について説明する。第2節は各地域によると、お盆の開会の期間の違うこと。第3節の問題はお盆の儀式を説明する。第4節はお盆会部の問題である。

**第3章**：このセクションでは日本の伝統的な祭りの保全、推進方法を紹介し、ベトナムの伝統的な祭りの開発に関連する。

## 第1章: 定義と概念

世界中、すべての国は、大国か小国か精神生活は重要性をされている。毎日、誰でも生活のために忙しくて忙しくて、すべての心配の人々が私たちの不安定な心理状態に陥る。そのため、エンターテインメント、娯楽の多様な種類のエンターテインメント施設への人々がたくさんある。日本のように発達した経済を持つ国に対して、強力な必要がある。世界中で日本の祭りの数は多いという理由のである。

日本は経済の奇跡の発展する国として、有名になった。しかし、この国は自然が恵まれないで、地震、火山活動を続けている。山と海が周囲されて、別な島になって、孤立された国である。そのため、日本の別文化を構成した。

日本は多くの宗教の国で、日本の祭りのシステムは複雑である。だから、日本の伝統的な祭りの研究学習したい場合は、最初に、お祭りの理論的基礎を理解する必要がある。

### 1.1. 祭りの概念：

#### 1.1.1. 祭りの提議:

祭りの文化活動や精神的な慣行のは、精神的なニーズを満たすために連帯感を強化するようなものである。最初の1つの利点は、祭りでは地域社会にもたらす、それによって社会全体、個々の生活のニーズへの希望を作成する精神的なニーズを満たしている。

民間文化の辞書の定義によれば、祭り（また、国会の休日など）はローカルまたは国では文化や社会活動のフォームに知られている集団、性別、職業、産業界や宗教の組織内と言うことである。<sup>1</sup>

Alessandro Falasi の研究によると、*祭りは儀式や伝統的なゲームを取り文化や社会的グループの定期的な記念活祝う表現活動である。*<sup>2</sup>

---

<sup>1</sup> Lê Thị Kim Oanh, 「京都における伝統的な祭り、時代祭り」より[9; 2009:17]

<sup>2</sup> Lê Thị Kim Oanh, 「京都における伝統的な祭り、時代祭り」より[9; 2009:17]

日本語で「まつり」は祭りを意味する。基本的に祭りは神道からの起源で、毎年指定された日付に行われている。

祭りは、主に神聖と靈魂の怒りを減ったり、農業のサイクルをしまったりすることのために古代の神事から派生した。神事を組み合わせて、中国から導入した仏教の儀式と儒教と一緒に、恒例のお祭りカレンダーを構成された。祭りは儀式と祭事が含まれる。

今日では、発展と多様化社会と一緒に、祭りは、2つの方向に開発した。それは伝統的な祭りと現代のお祭りである。

+伝統的な祭り：古典的な祭りと国家民族の伝統的な価値を向ける祭りである。

+現代的なお祭り：親祭で、近代化に向けて、近代国家の社会生活の中で起こったことを付けられている祭りである。

祭りは人間と共同に満足的な精神を含み、社会生活のさまざまな側面を反映をもたらす。

### **1.1.2. 祭りの構造と機能**

祭りの基本的な構造は2つの主要な部分：儀式と祭事が含まれる。

儀式は大切な部分で、厳く決まっていた。神に尊敬と信頼を表し、神が保護される願望で行われた。いつもお寺、神社で行われる。

祭事はもう一つの部分である。儀式の後、行われ、参加者の数も多い、第一番賑やかな部分である。加えて、会はまだ、伝統的なゲームに参加して、混雑の音と踊りを集めて、豊かで多様で、儀式より伸びられた。祭事に参加するとこの人たちは、喜び、興奮を表示し、日常生活の心配事を忘れて楽しい満たしている。

## **1.2. 日本の伝統祭りの儀式と祭事**

日本は祭りを守って、維新しているのは有名な国である。日本の祭りは文化的な活動で、人間と自然の交流関係を調和したということである。

第 5 世紀から、日本の文化は、中国の文化に影響されいた。その後、明治維新の時に、強力な 西洋文化の影響を与えた。日本は、外国文化を受け取り、選択し、自分の文化を変化していた。間の文化的伝統を維持を選択的に、外国の文化を吸収していた。日本の伝統的な祭りは多形多様で表現しても、主に神々を礼拝し、伝統的な農業文化を重要している。

### 1.2.1 儀式

古代以来、祭りは宗教的な儀式を行うように理解し、神と人間の間の交流の形である。日本の伝統的な祭りは 2 つの部分に分かれた。祭儀と付け祭りと呼ばれまる。式はお祭りの中心に考えられている。原始的、宗教的な儀式は厳しく行われ、その後、簡単になった。神主やコミュニティの長は、神社の祭りで儀式を行っている。国際的な儀式で、僧侶が祝詞の祈り憲人を読み、神のおかげで、人間のお礼と希望を送信される。その後、神々や参加者のパーティでお祭りにある直会に参加しました。

昔、過去には、祭りの組織は通常より多くの資金を受け取り、さらに人手が必要であった。したがって、家計の各支出の貢献、明確に定義されまた。村では、政府高官のほか、村での状態に応じてもっとお金を貢献していた。

### 1.2.2 祭事

儀式は精神の部で、祭事は生活の部である。したがって、祭事は通常より長く、大衆の混雑が参加する。祭事は様々な形で行われた。祭りは賑やかな踊りと伝統的な衣装を魅了する。

行列が祭事を中心と見なされる。今日の日本では、祭事は大きな関心式を受け取った。

祭りによっては、御輿の巡行に、山車（山）、屋台が随行する場合もある。

神輿と山車は行列の中心にする。神を迎え送りものである。今日では、いずれかのお祭り好きな活動は神輿や山車を持ち上げたり参加しての活動であ

る。特に若い人や外国人は非常に熱心で、この活動に参加する意欲を証明した。

**神輿**、御輿（みこし、しんよ）は、神道の祭の際に、神霊が御旅所などへ渡御するに当たって一時的に鎮まるとされる輿である。輿であるから通常は担ぎ上げて移動するものを指して言うが、それを台車に乗せて曳くものなど、別形態のものを指すこともある。「御輿」は「輿」に「御」を付けたものであるが、通常はさらに「御」をつけて「おみこし」と呼ばれる。神が乗る輿であるので「神輿」とも書かれる。なお、鳳を屋形に頂き神輿の原型とされる輿を特に鳳輦という。小ぶりの神輿をかたどったものが多い。他に、神木（諏訪大社・長野県諏訪市）、人の性器（田縣神社・愛知県小牧市）をかたどったもの、人形を置いたものなどもある。大きさの単位は、ふつう台輪とよばれる部位の幅で測られ、日本で一番大きな神輿は東京都富岡八幡宮の御本社一の宮神輿である。担ぐための棒が付いているのは共通するが、前後にだけ付いたもの（二点棒）や左右にも付いたもの（四点棒）があり、本数もその地区により異なる。

神輿の祭りは、大きく分けて 2 種類に別けられる。一つは天皇の行幸を模し、鳳輦型の神輿に神霊を奉じて渡御する「王朝型神幸祭」。京都の石清水八幡宮や、東京の日枝神社の神幸祭などがその例である。二つ目は神輿を激しく振り立て、神輿振りを強調する「日吉型渡御祭」で、神輿を激しく振り動かすことによって神の霊威を高め、豊作や大漁を願うものである。滋賀の日吉大社・山王祭や、京都の八坂神社・祇園祭や、東京の浅草神社・三社祭や鳥越神社・鳥越祭りなど全国各所に多く存在する。いわゆる暴れ神輿である。





図 1.2.21. 典型的な神輿

出典： <http://ichinews.acc.vn/bai-viet/11734/mikoshi---den-tho-shinto-di-dong/xem.htm>



図 1.2.2.2. 神輿の行列

出典： [http://www.kandamyoujin.or.jp/kandasai/h19/history/img/index03\\_4.jpg](http://www.kandamyoujin.or.jp/kandasai/h19/history/img/index03_4.jpg)

山車（だし）とは祭の際に使われる出し物。豪華な装飾が施されていることが多い。山車は車輪を付け、神輿と違う。神幸祭などでは、山車が町の中をねり歩き行列になる祭もある。



図 1.2.23. 山車

出典：[http://www.hanamakionsen.co.jp/blog/花巻まつり\\_山車1\\_-thumb.jpg](http://www.hanamakionsen.co.jp/blog/花巻まつり_山車1_-thumb.jpg)

人々が、一緒に行列の種類の結合を楽しむことが加わった。これらのように深刻な神輿と山車を持ち上げるために、参加者の結合が必要とされた、集団的精神を高くできるようにする。これは子供たちに伝統的な教育をされるために良い方法である。

一方、日本の概念に、神々は、祭事を通じて、人々と通信する役割と思われる。したがって、祭事は賑やかなら賑やかほど、神々が満足される。祭りの期間中は、礼拝のために人間の精神を集中する手段として、踊りが出た。神に良いものを提供することは神が人間の願望を理解できるための希望である。そのため、日本人は行列に参加し、ケーキを食べ酒を飲む光景は、喜んで賑やかなお祭りになる。また、日本の古人は近く村の祭りに行く習慣のあった、その村の一員ではないから儀式に参加しないで、祭事に参加することであった。

それで、祭りと言え、儀式より、祭事が想像されることが多い。

### 1.2.3. 日本の伝統祭り分類

日本の伝統的祭りを研究し、分類することは、他国と同じ、いろいろな方法がある。

祭りの行う範囲によると、祭りは全国祭りと地方祭りを二つ分けている。開会の期間によると、季節の祭りがある（春、夏、秋、冬）。他には、表す内容の反映する祭りは農業祭りや宗教祭りや歴史祭りなどがある。

どのように分割するのは正しい方面もある。しかし、不合理な重複を避けないこともある。また、毎年、日本では何百のお祭りがあって、規模が違って、神道思想の影響を受け取った祭りと言うことだ。神や祖先や自然的な力の崇拝を礼拝するのは伝統的な祭りの顔全体の主要なテーマである。

また、歴史の長さ、祭りは社会、歴史の変化、新しい文化の内容を収入し、古いのと新しいのを組み合わせ、外来の文化と民族の文化を混ぜる分化を構成した。したがって、日本の祭りのシステムーの中に神道の祭りも、中国文明から導入された仏教の思想を反映される祭りもある。加えて、伝説的な傾向も祭りの内容と形を支配する可能性が高いである。

英語と日本語の材料によると、“*Japan An Illustrated Encyclopedia – カラーペディア 英文日本大事典*”、講談社、1993 年までに発表した本[2]なんて：日本の祭は 2 つのグループであり、「年中 行事」と「祭り」である。これは多様な宗教儀式、加えて、宗教祭事に関連することを示すという言葉である。「祭り」と言う言葉は神や祖先を礼拝することと神霊と人間の関係を表すことを説明する。「年中行事」は毎年恒例のイベントや季節のイベント、主に中国から発信されることを意味かと、仏教に関連している。

今では日本の祭り範囲のスペースに応じて文書分類される。国家の伝統的な祭りに加え、しばしば年中行事と言い、行政の地域における、それぞれの地域で独自のお祭りがある。日本の有名な雑誌のオートルートによると、伝統的な祭りは 6 行政区画として分類されている。1. 北海道や東北; 2. 関東;

3. 中部; 4. 近畿; 5. 中国と四国; 6. 九州と沖縄。

祭りの性質と表す内容のように分類する研究者もいる。例えば、照明祭りは暗闇、火災や星に関し、またはお祭り再び歴史的なイベントですに関連するなど、このようなお祭り、ダンス映画祭、映画祭の公演、季節のお祭り、宗教祭、農業祭...

日本の伝統的な祭りの分類はかなり複雑である。調査の基準とのオリエンテーションの目的に応じて異なる分類されます。ただし、任意の条件の下で、日本の伝統的な祭りに分類まれには、次の 3 つの基本的な要素の一つである：

1. 神と祖先に次の世代の尊敬の表現と感謝気持ちを表す。
2. 正式な儀式、伝統的な再を通して地域の特徴を表す。
3. 人々に現代生活のエンターテインメントの要求を満たす。

研究対象は仏教のお祭りで、本論は祭りの性質と表す内容について、日本の伝統祭りの分類に向けてる。そのように日本の伝統的な祭りは次の通り分かれる：

- ❖ キャリア祭：農業祭や漁業祭
- ❖ 宗教祭
- ❖ 歴史祭

お盆は宗教祭りで、このタイプについて大切に紹介する。

日本の正宗教は神道である。神道は日本の古代宗教、国家民族の宗教、日本人の精神生活から進化したものである。神道は神の道と言う意味で、それは宗教の神の精神的な自然の力を非常に基づいているも、国の利益のために神の恵みの美德を覚えて、天皇の威信電力を増やす。実際には、神道は本当の意味での宗教ではない。

中国や韓国からの文化を導入し、道徳的な神道のシステムは仏教と儒教の思想に影響される。それは日本の伝統的な祭りにも影響する。しかし、神道は、日本人の典型としての信頼を維持している。

### 1.3. 盆お祭り

お盆の起源お盆の定義を通じてお盆祭りを説明する。

#### 1.3.1. お盆の起源

お盆の起源について、多くの異なる意見がある。本論は一致の意見を紹介する。

**お盆**は正式には「盂蘭盆会」と言う。これはインドの言葉の一つ、サンスクリット語のウラバンナ（逆さ吊り）を漢字で音写したものである。お盆のはじまりについては『盂蘭盆経』の中の親孝行の大切さを説いた教えが昔から知られている。

#### 1.3.2. お盆提議

お盆は旧暦の7月15日を中心に行われる先祖供養の儀式で、先祖の霊があの世から現世に戻ってきて、再びあの世に帰っていくという日本古来の信仰と仏教が結びついてできた行事である。多くの地方で8月13日の「迎え盆」から16日の「送り盆」までの4日間をお盆としているが、地方によっては7月一杯をお盆とする地域や旧暦通り7月15日を中心に行う地域などがある。

「お盆」は「盂蘭盆会〔うらばんえ〕」を略した言葉です。盂蘭盆会とはサンスクリット語のウラバンナ（逆さ吊り）を漢字で音写したもので、転じて「逆さまに釣り下げられるような苦しみにあっている人を救う法要」という意味である。お盆は、先祖や亡くなった人たちの霊（精霊）が灯かりを頼りに帰ってくるといわれており、祖先の魂を迎えることを目的としている。

仏教伝来以前から「御霊（魂）祭り」など、祖先の霊を迎える儀式が存在した。推古天皇（606年）の時代、僧と尼を招き食事や様々な仏事を行う"斎会〔さいえ〕"が設けられ、この様式が現在の「お盆」の原型になったと考え

られている。朝廷で始まったお盆はその後、武家・貴族・僧侶・宮廷などの上層階級で主に催され、一般庶民に広まったのは江戸時代になってからのようである。江戸時代に入り町人がある程度の財政力をもってきたため、仏壇の普及や盆提灯に使われるロウソクの大量生産とともにお盆行事が広く根付いた。元々日本人が持ち合わせていた「祖先を供養する心」とお盆行事は固く結びつき、「お盆」は今日まで受け継がれてきている。

日本各地で行われるお盆の行事は、各地の風習などが加わったり、宗派による違いなどによってさまざまであるが、一般的に先祖の霊が帰ってくると考えられている。日本のお盆は祖先の霊と一緒に過ごす期間なのである。



図 1.3.2.1. お盆祭りにお墓に参り

出典： <http://genkona.cocolog-nifty.com/photos/uncategorized/2007/08/21/photo.jpg>

お盆を行う方法は地域によろうと違いだが、全体的な方法がある。お盆に向け準備では、日本人は家や寺で相対祖父母の遺骨、墓地をきれいに掃除して、盆市場へ提供物や食品など（花、果実）を購入行く。





図 1.3.2.2. 盆市場

出典： <http://www.otaru.ne.jp/data/news/photo/image0901.jpg>

上記、お盆に関する大体紹介する。これからお盆の儀式と祭事について紹介する。

## 第2章：日本のお盆

### 2.1. 盆お祭りの由来：

#### 2.1.1. 日本では仏教の形成

日本は、多くの宗教の国である。宗教は本地の神道、外来の仏教、儒教、キリスト教など、日本での生活の大きな影響を与える。

日本の『日本書紀』（720）によると、仏教は552年に韓国から日本に導入した。その時、Peakche 王が日本の天皇に金と銅での像の釈迦や仏教の本を贈った。

日本に仏教を初め伝える人は聖徳太子である。聖徳太子（生誕：574年2月7日；死没：622年4月8日）は、飛鳥時代の皇族、用明天皇の第二皇子。母は欽明天皇の皇女・穴穗部間人皇女（あなほべのはしひとのひめみこ）。また、『上宮聖徳法王帝説』などでは厩戸豊聰耳聖徳法王の子に山代大兄（山背大兄王）らがいるという。

本名は厩戸（うまやど）であり、厩戸の前で出生したことによるとの伝説がある。厩戸皇子は当時最大の豪族である蘇我馬子と協調して政治を行ない、隋の進んだ文化をとりいれて天皇の中央集権を強化し、新羅遠征計画を通じて天皇の軍事力を強化し、遣隋使を派遣して外交を推し進めて隋の進んだ文化、制度を輸入した。仏教の興隆につとめ、『国記』、『天皇記』の編纂を通して天皇の地位を高めるなど大きな功績をあげた。





図 2.1.1.1. 聖徳太子

出典：

[http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Umayado\\_Miko.jpg](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Umayado_Miko.jpg)

### 2.1.2. 盆お祭りの由来：

上記の通りに、仏教の観念によると、人間が生まれ、育て、死ぬ。それは一生と言われる。しかし、死んだことはエンディングしたことではなく、他世にいった。その死は、別の世界に起こっている曲で、世界の人々の生活が存在する。人間が生き場合は、インテリアの信仰のたくさんあるし、死んで地獄に 9 階亡命者とは、妊娠初期からの生活者には、スーパーは報告された結果を行う予定だ。

お盆は正式には「盂蘭盆会」と言う。これはインドの言葉の一つ、サンスクリット語のウラバンナ（逆さ吊り）を漢字で音写したものである。お盆のはじまりについては『盂蘭盆経』の中の親孝行の大切さを説いた教えが昔から知られている。それは、「お釈迦様の弟子の中で、神通力一番とされてい

る目連尊者が、ある時神通力によって亡き母が餓鬼道に落ち逆さ吊りにされて苦しんでいると知った。そこで、どうしたら母親を救えるのか、お釈迦様に相談にいった。するとお釈迦様は、おまえが多くの人に施しをすれば母親は救われると言われた。そこで、目連尊者はお釈迦様の教えにしたがい、夏の修行期間のあける 7 月 15 日に多くの僧たちに飲食物をささげて供養したのである。すると、その功德によって母親は、極楽往生がとげられました」という話である。

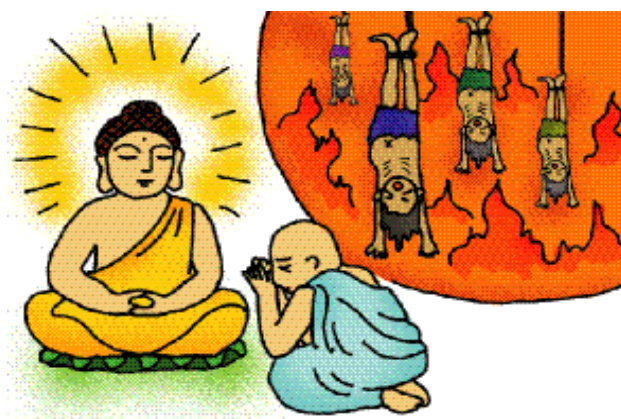


図 2.1.2.1. 釈迦と目連尊者

出典： <http://www.e-sogi.com/arekore/obon.html>

お盆祭りやもヴ蘭祭と呼ばれる祭りの仏教に没頭していると思った。この死をはるかに可能性は、地獄の音を、政府への扉を開いた上に戻る天井空間内の親戚を訪問する許可を監禁した。中国やベトナムなど、他の国では、ヴ蘭式祖父母、父母を育成する学生たちに感謝の意を表明する機会である。ほかにも文化 7 月式ている（また、死の恩赦式など）、結婚式までに死亡した、快適さの上に日陰です親族訪問もせず知られる。この儀式は 2 つの完全には分離、まだいくつかミス を私たち一人だった。日本、特にのため、この 2 つの祝日である。

## 2.2. 祭りの期間

各地によると、お盆の期間が違う。一般的に3つある。七月盆、八月盆 と九盆。

これは、明治になって新暦が採用されると、7月15日では、当時国民の8割<sup>わり</sup>を占めていた農家の人たちにとって、もっとも忙しい時期と重なってしまい都合が悪かったからである。それで、お盆をひと月遅らせ、ゆっくりとご先祖様の供養ができるようにしたわけである。月おくれ盆にあわせて、毎年帰省ラッシュが騒がれるのはご存じのとおりである。

## 2.3. お盆の儀式

宗派は違っても、仏壇に明かりを灯し、線香を上げ、花や供物を添えることは供養の基本。一般的に五供と言われている。

### 五供とは

- ❖ 香（こう）→悟りの世界に至るための修行道。ご先祖さまに香りを感じてもらう。法事の際は抹香を使いますが、普段は長持ちする線香を使う。

※口で息を吹きかけて消さないで、手か火消し用のウチワで消すように気をつけて。

- ❖ 花→仏さまの世界をさらに高める。故人の好きだった花や庭の花や野の花でも喜んでもらえると思う花をお供える。

※お花が枯れないように水替えを忘れずに。

- ❖ 灯燭（とうしょく）→ともしびのこと。仏前を明るく照らし、その明るさが仏さまの知恵の象徴と、ゆっくりと燃えながら、いつしか燃え尽くす様子が、人生の無常を表していると言われる。線香をつける役目もあり、おまいりする時は、必ずロウソクをつける。

※ロウソクを消すときには、息を吹きかけて消さない。人間の息は不浄とされ、仏さまに失礼であるとされている。

❖ 浄水→清浄な水を供えることによって、おまいりする人の心を洗う意味がある。毎日新鮮な水（水道水でいい）をお供える。

❖ 飲食→毎日家族が食べるものと同じものを家族の食事の前にお供える仏前と故人の命日や法事のお供えする霊供膳がある。霊供膳は、一汁三菜の精進料理ですから、魚や肉などの生臭いものは、避けます。

※必ず食べられる状態でお供える。あまり長い時間お供えしっぱなしにしないで、下げるように。

**13 日**：お盆のしきたりは宗派や地域によって異なる。ここに紹介したのは、あくまでも一般的なものである。多くの地方では、ご先祖さまの霊を迎える精霊棚を 13 日の朝に作る。精霊棚は、盆棚とも言われ、位牌を安置し、お供えをする棚である。

13 日の夕方か夜に菩提寺とお墓に参り、祖先の霊を迎える。これを「精霊迎え」と言う。この時に霊が迷わず帰ってこられるように焚くのが「迎え火」である。地方によってはお墓からの道筋に、たくさんの松明を灯す所もある。

夕方に仏壇や精霊棚の前に灯りを灯した盆提灯を置き、庭先や門口に皮をはぎ取った麻の茎（麻幹「おがら」）を焚く。この灯り＝炎を「迎え火」と言い、精霊に戻る家の場所を伝える。また、先祖の墓が家の近くにある場合には、お墓の前で盆提灯や盆灯籠を灯し、お墓から家まで精霊を案内する。このように、お盆は精霊を家に迎え入れる事から始まる。

お供えは茄子で作った牛や胡瓜の馬が供これは、ご先祖さまの霊が牛に荷を引かせ、馬に乗って行き来するという言い伝えによるものである。

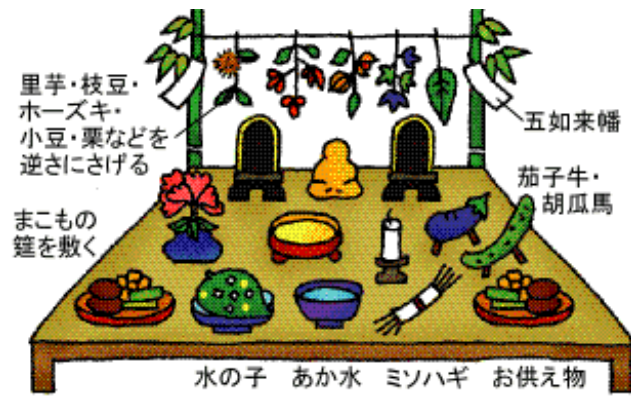


図 2.3.1. お盆の供え棚

出典 : <http://www.e-sogi.com/arekore/obon.html>



図 2.3.2. 茄子で作った牛や胡瓜の馬

出典 : <http://www.e-sogi.com/arekore/obon.html>



図 2.3.3. お盆のお供え物

出典： <http://www25.big.or.jp/~tenzo/blogimg/H21/0810-12.jpg>

お盆には、ご先祖や故人の霊が迷わず帰って来る目印として、盆提灯を飾るのが習わしになっている。

また盆提灯は、その家の中に霊が滞在しているしるしであるとされ、鎌倉時代からこの盆提灯の習慣は行われていた。

最近では新盆には、親戚や故人と親しかった方々は、故人の供養のためにお供え物をしますが、盆提灯はお供えとして最高のものとされている。

むかしは、新盆用の白提灯は故人のご家族が購入し、普通の絵柄の入った盆提灯は、兄弟、親戚などから贈られていた。

しかし最近では、盆提灯を飾るスペースなどの住宅事情を考えて、兄弟、親戚などから盆提灯用にと現金で頂戴して、故人のご家族が全て用意する場合も多くなっている。

絵柄の入った盆提灯は、精霊棚（盆棚）やお仏壇の両脇に一对、二対と飾る。飾るスペースがないときは、片側に一つだけ飾る場合もある。





図 2.3.4. 盆提灯

出典： <http://image.blog.livedoor.jp/oidemise/imgs/9/e/9e198847.jpg>

#### 14 日・15 日

精霊が家に留まっている期間である。仏壇にお供え物をして迎え入れた精霊の供養をする。14 日か 15 日に僧侶を招き、お経や飲食の供養をする。お供えものは、13 日はお迎え団子(あんこのついたお団子)、14 日はおはぎ、15 日はそうめん、16 日は送り団子(白い団子)と毎日変えてゆく。

#### 16 日：送り盆

16 日の夜に、精霊は再びあの世へ帰っていく。この時、迎え火と同じ位置に今度は「送り火」を焚き、再び帰り道を照らして霊を送り出す。

精霊流しは、お盆のお供え物をのせた精霊舟に火を灯して海や川に流す行事で、8 月 16 日に行われる場合が多いである。

また灯籠を流す、灯籠流しをする地域もあり、これらは「精霊送り」と「送り火」を一緒にしたものである。



図 2.3.5. 灯篋流し

出典：伊藤久美、Warabe 伊藤久美わらべ絵の世界、文芸社ビジュアルアート、2007

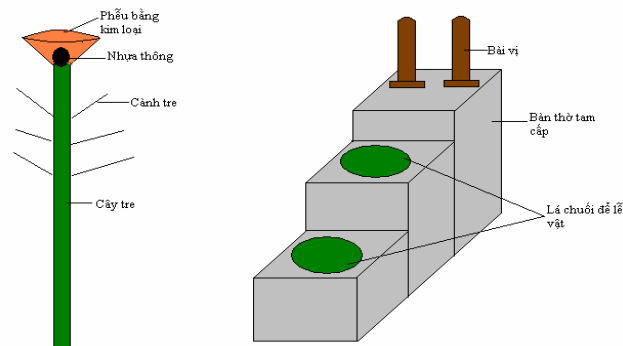


図 2.3.6. 四国の盆棚

**新盆：**故人の四十九日の忌明け後、初めて迎えるお盆を「新盆」という。アラボン、ニューボン、アラソングジョ、ニイジョウロ、ネジョウレイなどと呼ぶこともある。普段のお盆よりも手厚く供養するのは、人の情として自然なことでしょう。新盆には親戚や縁者から盆提灯が送られる。地域によって異なりますが、何も絵柄のない白張提灯を新盆の時だけ使い、送り火で燃や



したりお寺へおさめたりする風習があるようである。毎年のお盆には秋草の模様などの入った提灯を使う。

新盆用の白提灯は、玄関や縁側の軒先や、仏壇の前に吊るす。白提灯はローソクの火を灯せるようになっていますが、危ないので火を入れないで、ただお飾りするだけで迎え火とする場合も多いである。



図 2.3.7. 新盆用の白提灯

出典： <http://image.blog.livedoor.jp/oidemise/imgs/9/e/9e198847.jpg>

## 2.4. お盆の祭事

14日～17日にかけては寺の境内や町の広場などで「盆踊り」が行われる。これは、精霊を迎え、慰め、そして送るための踊りであったと言われている。8月12～15日まで「連」という踊りの集団を組んで市内を練り歩く徳島県「阿波踊り」や7月中旬から9月中旬まで連日町をあげて踊る岐阜県「郡上踊り」などは全国的に有名である。

また、京都を中心に行われる「地蔵盆」は、子供の守護神である「地蔵菩薩（お地蔵様）」をお祭りする儀式で、ここで紹介したお盆（盂蘭盆会）とは別の意味を持つ。

お盆の間一緒に過ごしたご先祖の霊を送り帰す「精霊（しょうりょう）送り」のために、16日に再び、焙烙でおがらを焚くのが「送り火」である。

京都の有名な大文字焼きも、送り火のひとつである。

焙烙(ほうろく)は仏壇屋で、おがらはスーパーや花屋で求めることが出来る。

山の中に燃焼された火災の「大」、「法」、「妙」と「鳥居」、天国の門を意味する。これはまた、京都の有名な観光である。



図 2.4.1. 山の中に燃焼された火災の「大」、「法」、「妙」と「とりい」、天国の門を意味する。

最近では宗教的な色合いは薄れてきましたが、元来盆踊りは、戻ってきた精霊を慰め、送り出すために催されてきた。また、戻ってきた霊が供養のおかげで成仏できた喜びを踊りで表す、と伝えられている地方もある。私たちが、祖先に感謝し生きていることの喜びを表現するために踊ると考えてもよいでしょう。

<sup>3</sup>出典: [http://www.kyoto-svvn.org/Upload/daimonji\\_anime.gif](http://www.kyoto-svvn.org/Upload/daimonji_anime.gif)

<sup>4</sup>出典: <http://www.kyoto-svvn.org/Upload/gozan04.jpg>

<sup>5</sup>出典: <http://www.kyoto-svvn.org/Upload/gozan03.jpg>

<sup>6</sup>出典: <http://www.kyoto-svvn.org/Upload/gozan02.jpg>



図 2.4.2. 盆踊り

出典 : [http://en.wikipedia.org/wiki/Bon\\_Festival](http://en.wikipedia.org/wiki/Bon_Festival)



図 2.4.3. 盆踊り

出典: [http://en.wikipedia.org/wiki/Bon\\_Festival](http://en.wikipedia.org/wiki/Bon_Festival)

### 第 3 章：お盆とにほんの伝統的な祭りを保全する方法から、ベトナムのを考える

祭りは日本の伝統的な祭りの別保全方法である。毎年、日本でどこかいくつか祭りがあり、男性と女性は、老いも若きも踊りの行列型のライン では、チャン平和夢中に叫ぶ。

伝統文化の保護では、日本の伝統文化の価値観の風土病と考えられる。これらの職人を保持する送信することができるの呼び出し、およびカテゴリを継承する。

ベトナムは長い歴史に戦争をされた。もう一つの理由は、ベトナムが豊かな国ではない。そのため、伝統的な祭りを保全するのは難しいだ。

最近、ベトナムでは、伝統的な祭りを再している。日本の保全方法を学んだ方がいいと思う。

## 結論

親に感謝気持ちを持っているのは子供たちの心の深い所に残っている。親子の愛はいつまでも存在し、美しいことである。東方にその感情は子供たちに対して主要になって、人間の家族を支配する現象の社会である。これはベトナムに深い道徳的な社会の表現である。

東方のベトナム、中国、韓国と同じ、日本も親たちに感謝心を表す日もある。それはお盆と呼ばれた。

日本のお盆は親たちに感謝日の以外、死んだ人たちに供える日である。地域によると、お盆の行う期間が違う。一般的に陽暦の八月の 15 日に行われる。祖先棚を作り、果物や伝統的な食べ物を供える。特に茄子で作った牛や胡瓜の馬を供える。

霊が迷わず帰ってこられるように焚くのが「迎え火」である。地方によってはお墓からの道筋に、たくさんの松明を灯す所もある。そして、16 日は送り盆である。この日に、お盆の間一緒にすごした祖先の霊を送り出すことを「精霊送り」と言う。この時に「送り火」を焚くことも広く行われている。故人の四十九日の忌明け後、初めて迎えるお盆を「新盆」と言う。新盆の白い提灯用を使う。

日本のお盆は本当に賑やかな祭りである。参加者は一緒に踊ったり、歌ったりすることで、普通の生活のことの心配を忘れられる。

日本の伝統的な祭りの保全方法が良いので、ベトナムは学んだほうがいいと思う。

## 引用・参考文献一覧

### ベトナム語資料

1. Hòa thượng Thích Huệ Đăng (Dịch giả), “*Kinh Vu Lan và Báo hiếu*”, NXB Tôn giáo, 2008.
2. Nguyệt Hà (biên soạn), “*Phong tục hôn lễ, tang lễ, tế lễ Việt Nam*”, NXB Đà Nẵng.
3. Hoàng Quốc Hải, “*Hội hè Việt Nam*”, Văn hóa phong tục, NXB Phụ Nữ, 2007, Tr. 50-54.
4. Hồ Hoàng Hoa, “*Lễ hội cổ truyền Nhật Bản*”, Nghiên cứu văn hóa nghệ thuật, 1992, Số 104, Tr.51-52.
5. Cung Hữu Khánh, “*Người Nhật với các tôn giáo*”, Nghiên cứu Nhật Bản và Đông Bắc Á, Trung tâm Khoa học xã hội & Nhân Văn Quốc gia – Trung tâm nghiên cứu Nhật Bản, 2002, Số 2 (38), Tr. 44-48.
6. Nguyễn Kim Lai, “*Về sự hòa hợp giữa Thần Đạo và Đạo Phật ở Nhật Bản*”, Nghiên cứu Nhật Bản và Đông Bắc Á, Trung tâm Khoa học xã hội & Nhân Văn Quốc gia – Trung tâm nghiên cứu Nhật Bản, 2005, Số 2 (56), Tr. 28-35.
7. Nguyễn Quang Lê, “*Tìm hiểu mối quan hệ giữa lễ hội cổ truyền với Phật giáo qua tín ngưỡng dân gian*”, Văn hóa dân gian, 1992, Số 40, Tr.71-77.
8. Thu Linh – Đặng Văn Lung, “*Lễ hội cổ truyền và hiện đại*”, NXB Văn hóa dân tộc, 2002.
9. Hoàng Minh Lợi, “*Nghi lễ Thần đạo Nhật Bản*”, Nghiên cứu Nhật Bản và Đông Bắc Á, Trung tâm Khoa học xã hội & Nhân văn Quốc gia – Trung tâm nghiên cứu Nhật Bản, 1997, Số 1/1997.
10. Đặng Văn Lung, “*Lễ hội và nhân sinh*”, NXB Đại học Quốc gia Thành phố Hồ Chí Minh, 2005.
11. Joseph M.Kitagawa, “*Nghiên cứu tôn giáo Nhật Bản*”, Hoàng Thị Thơ (biên dịch), NXB Khoa học xã hội, Hà Nội, 2000.

12. Nguyễn Văn Mạnh, “*Giá trị của lễ hội truyền thống trong xã hội hiện đại*”, Văn hóa dân gian, 2002, Số 80, Tr.3-6.
13. Lê Thị Kim Oanh, “*Lễ hội truyền thống tái hiện lịch sử ở Kyoto - Nhật Bản (Trường hợp lễ hội JiDai)*”, Luận văn thạc sĩ chuyên ngành Châu Á học, Trường ĐH Khoa học xã hội và nhân văn – Đại học quốc gia Hà Nội, 2009.
14. Phạm Hồng Thái, Th.S, “*Tín ngưỡng truyền thống của người Nhật qua một vài nghi lễ phổ biến*”, Nghiên cứu Nhật Bản và Đông Bắc Á, Trung tâm Khoa học xã hội & Nhân Văn Quốc gia – Trung tâm nghiên cứu Nhật Bản, 2003, Số 5 (47), Tr. 42-47.
15. Hồng Lê Thọ, “*Tìm hiểu văn hóa lễ hội của người Nhật Bản một hình thái độc đáo để giữ gìn bản sắc và truyền thống*”, Bản sắc dân tộc trong văn hóa văn nghệ, 2002, Tr. 218-226.
16. Lê Trung Vũ, “*Lễ hội, một nhu cầu văn hóa – xã hội*”, Văn hóa dân gian, 1986, Số 16, Tr.41-50.
17. Lê Trung Vũ, “*Lễ hội, một vấn đề thời sự*”, Văn hóa dân gian, 1988, Số 23, Tr.37-44.
18. Lê Trung Vũ, P.GS và Lê Hồng Lý, P.GS, “*Lễ Vu Lan*”, Lễ hội Việt Nam, NXB Văn hóa thông tin, 2005, , tr. 1139 – 1141.
19. Nhật Vương, “*Tín ngưỡng truyền thống của người Nhật qua một vài nghi lễ phổ biến*”, Nghiên cứu Nhật Bản và Đông Bắc Á, Trung tâm Khoa học xã hội & Nhân Văn Quốc gia – Trung tâm nghiên cứu Nhật Bản, 2003, Số 5/2003.
20. Trần Quốc Vượng, “*Lễ hội: Một cái nhìn tổng thể*”, Văn hóa dân gian, 1986, Số 13, Tr.3-6.

#### 外国語資料 :

1. Gorazd Vihar; Charlotte Anderson, *Matsuri: World of Japanese Festivals*, Tokyo: Shufunotomo, 1997.
2. Kodansha Ltd., *Japan An Illustrated Encyclopedia – カラーペディア 英文 日本大事典*, published by Kodansha Ltd., 1993.

3. 伊藤久美、Warabe 伊藤久美わらべ絵の世界、文芸社ビジュアルアート、2007
4. 神崎宣武、「まつり」の食文化、角川学芸出版、2005
5. 野間佐和子、日本全史（ジャパン・クロニック）、株式会社講談社、1991.

#### インターネットからの資料

6. <http://www.kyoto-svvn.org/Upload/gozan03.jpg>
7. [http://en.wikipedia.org/wiki/Bon\\_Festival](http://en.wikipedia.org/wiki/Bon_Festival)
8. <http://genkona.cocolog-nifty.com/photos/uncategorized/2007/08/21/photo.jpg>
9. <http://gogen-allguide.com/o/obon.html>
10. <http://ichinews.acc.vn/bai-viet/11734/mikoshi---den-tho-shinto-di-dong/xem.htm>
11. <http://image.blog.livedoor.jp/oidemise/imgs/9/e/9e198847.jpg>
12. [http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Umayado\\_Miko.jpg](http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%95%E3%82%A1%E3%82%A4%E3%83%AB:Umayado_Miko.jpg)
13. [http://phapluanonline.com/index.php?option=com\\_content&view=article&id=814:tim-hiu-thut-ng-vu-lan-bn&catid=41:ngghien-cuu&Itemid=53](http://phapluanonline.com/index.php?option=com_content&view=article&id=814:tim-hiu-thut-ng-vu-lan-bn&catid=41:ngghien-cuu&Itemid=53)
14. <http://www.bonodori.net/E/sekai/bonabc3.HTML>
15. <http://www.buddhistchurch.com/events/Obon.htm>
16. [http://www.butsudanya.co.jp/bon\\_chochin.html](http://www.butsudanya.co.jp/bon_chochin.html)
17. <http://www.eonet.ne.jp/~jinnouji/page9/houwa/peag133.htm>
18. <http://www.e-sogi.com/arekore/obon.html>
19. <http://www.hanamakionsen.co.jp/blog/花巻まつり 山車 1 -thumb.jpg>
20. <http://www.japan-guide.com/e/e2286.html>
21. [http://www.kandamyoujin.or.jp/kandasai/h19/history/img/index03\\_4.jpg](http://www.kandamyoujin.or.jp/kandasai/h19/history/img/index03_4.jpg)
22. [http://www.kyoto-svvn.org/Upload/daimonji\\_anime.gif](http://www.kyoto-svvn.org/Upload/daimonji_anime.gif)



- 23. <http://www.kyoto-svvn.org/Upload/gozan02.jpg>
- 24. <http://www.kyoto-svvn.org/Upload/gozan03.jpg>
- 25. <http://www.kyoto-svvn.org/Upload/gozan04.jpg>
- 26. <http://www.otaru.ne.jp/data/news/photo/image0901.jpg>
- 27. <http://www.shindharmanet.com/writings/obon2.htm>
- 28. <http://www25.big.or.jp/~tenzo/blogimg/H21/0810-12.jpg>

## 表記や引用

### 日本お盆に関するイメージ



#### 1.1. 盆提灯



## 1.2. 盆提灯の道

出典: [http://www.butsudanya.co.jp/bon\\_chochin.html](http://www.butsudanya.co.jp/bon_chochin.html)





### 1.3. 盆棚

出典: <http://www.japan-guide.com/e/e2286.html>



#### 1.4. 盆踊り

出典: [www.shindharmanet.com/writings/obon2.htm](http://www.shindharmanet.com/writings/obon2.htm)





### 1.5. 盆踊り

出典: [en.wikipedia.org/wiki/Bon\\_Festival](https://en.wikipedia.org/wiki/Bon_Festival)